

変わりゆく地球環境における

海洋生物資源の持続的利用と課題

2026年

11月14日(土)

13時00時~17時30分

((・zoomウェビナーで同時配信

東京大学弥生講堂

対面参加：予約不要／オンラインは事前申込

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_p1Px_NLOSeK2SR2oFVl3yQ



わが国では古来より海洋生物を海の恵みとして主に食料資源として利用してきた。しかしながら近年の急激な人口変動や人為的要因での気候変動などで海洋環境は大きく変化してきた。このような状況の中で将来とも海洋生物資源の恩恵を維持することはできるのであろうか。このシンポジウムでは海洋生物資源の現状を解説しつつ、わが国の伝統的な水産食料資源である魚肉タンパク質と海藻の利用に焦点を当てて現状と将来展望を考える。



開催にあたって (総合司会) 日本農学アカデミー理事 渡部 終五
開催挨拶 日本農学アカデミー会長 中西 友子

基調講演「日本独自の持続的な水産資源利用」

東北大学名誉教授 大越 和加



「魚肉タンパク質の利用の伝統と新しい展開」

鈴廣かまぼこ(株)会長 鈴木 博晶

「海藻を食してCO₂削減に貢献する」

理研食品(株)取締役 佐藤 陽一



「人口減少と気候変動の下での漁業・養殖業」

(一社)全国水産技術協会会長 和田 時夫

「サンゴ礁を守る—

陸からの影響を捉える新たなモニタリング手法の開発」

北里大学海洋生命科学部准教授 安元 剛



総合討論

司会

(一社)全国水産技術協会会長・日本農学アカデミー理事 和田 時夫

閉会挨拶

公益財団法人農学会会長 堤 伸浩

